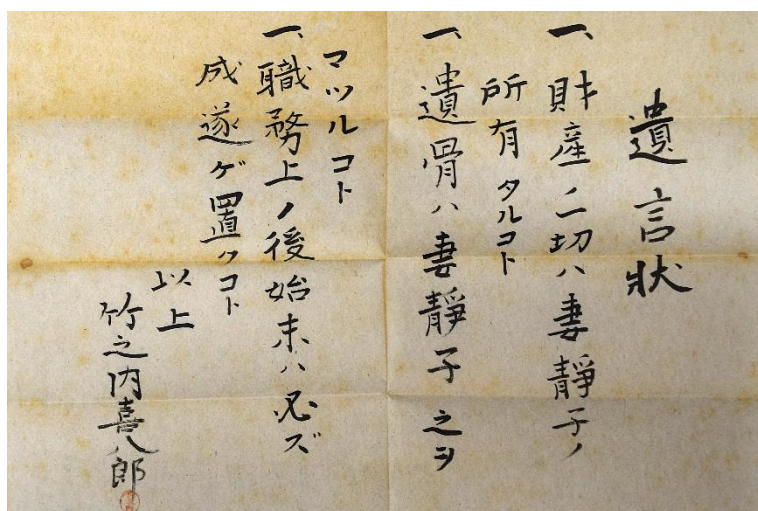


太平洋戦争の犠牲者 —戦死した作曲家兼音楽教師の記録—

1937(昭和 12)年の日中戦争、1941(昭和 16)年の太平洋戦争の開戦以降、多くの人々が徴兵され、戦死していきました。作曲家であり県立和歌山高等女学校(桐蔭高校の前身)の音楽教師であった竹之内喜八郎もその一人です。今回は、『和歌山高等女学校教諭竹之内喜八郎資料』にある戦中・戦後の記録から、戦死した竹之内とその遺族の取り巻く状況をみていきます。

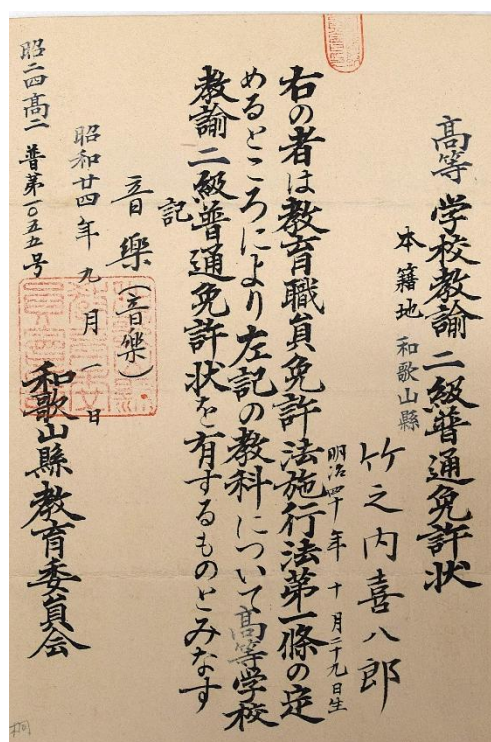
1 資料

【資料 1】遺言状

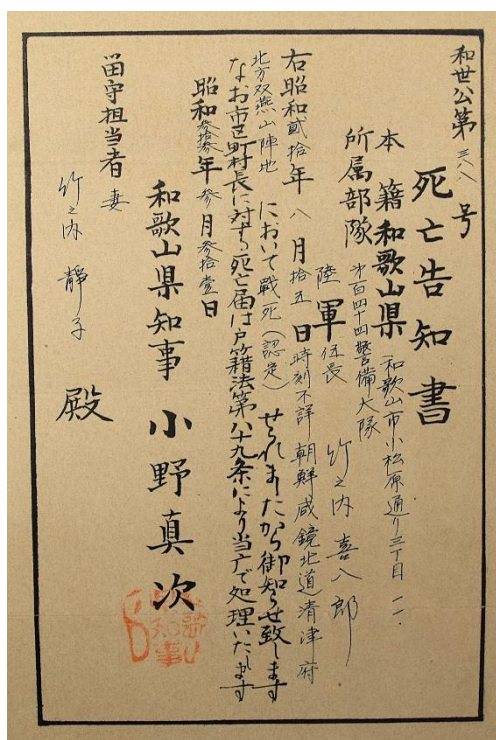


[* 資料のデジタル画像を見る](#)

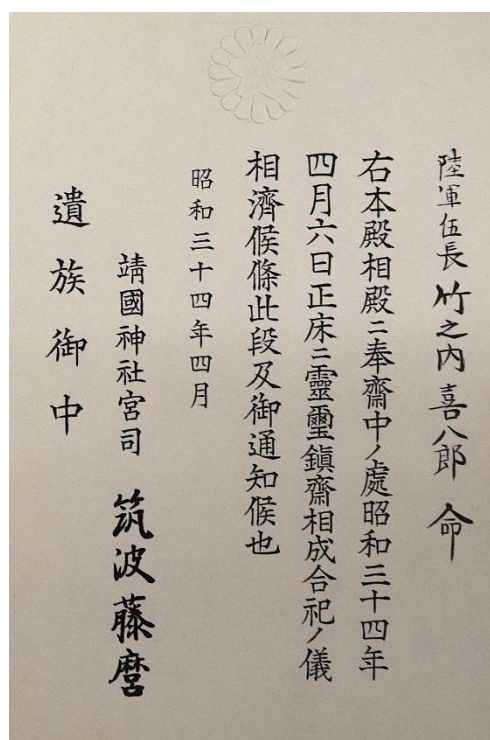
【資料 2】教員免許状



【資料 3】死亡告知書



【資料 4】靖国神社合祀の通知



(1) 大衆文化と童謡

明治末期には小学校の就学率が約 97% となり、国民のほとんどが文字を読めるようになりました。そのような中で、農民や労働者など職業的な枠を超えた大衆を担い手とする大衆文化が生まれ、マスメディアが発達し、様々な娯楽が普及しました。子ども向けの歌である童謡は、1918(大正 7)年に児童文芸雑誌『赤い鳥』を創刊した鈴木三重吉^{みへきち}らによって提唱され、大衆の間で流行しました。

(2) 戦時下の和歌山高等女学校

和歌山県立和歌山高等女学校^{とういん}(桐蔭高校の前身¹⁾)は、1891(明治 24)年に和歌山高等小学校女子部^{おん}温習科^{しゅうか}が独立し創立された学校です。1937(昭和 12)年の日中戦争開戦以降、学校にも戦争の影響が広がり、1938(昭和 13)年には、授業の一部が農作業や防空壕^{ぼうくうごう}作りになるなど、教育内容にも変化が生まれ、体操科の中に弓道やなぎなたが取り入れられました。また未来の主婦・母としての責務を強調するために家政科(家政・育児・保健・被服)が重視された一方で、英語は選択科目とされました。校則にも変化があり、映画館や食堂などへの入場制限、外出時は全て制服着用、腕時計やシャープペンシルの禁止、列車通学では男女の車両を区別等、「学生らしさ」を強調して日常生活まで細かく指導するようになりました。1944(昭和 19)年に入ると生徒たちは、勤労働員によって川崎航空機^{かわさきこうくうき}明石工場^{あかしこうじょう}(兵庫県)で働くことになりました。1945(昭和 20)年 3 月には、授業が基本的に停止され、学校の敷地は和歌山県立医学専門学校に貸し出されました。

(3) 本資料について

竹之内喜八郎^{たけのうちに きはちろう}関係資料は、作曲家・音楽教師の竹之内喜八郎が作曲した楽譜や写真などを含む資料です。

1907(明治 40)年、群馬県に生まれた竹之内は、1932(昭和 7)年に音楽教師として和歌山県に赴任、和歌山高等女学校を中心に勤務しました。また竹之内は、若山^{わかやま}牧水^{ぼくすい}作詞の「幾山河^{あおやぎ かもい}」、青柳花明^{あおやなぎ かもい}作詞の「ののさまの御手^{わか}」、「五月の歌」、「庚申猿」、「日暮田圃」などの歌曲や童謡の作曲もしていました。日中戦争開戦以降、竹之内は「雪の紀元節」、「和歌山報国鳩隊歌」、「戦地の兄さん」などの戦争の影響が強い作品の作曲を行うようになりました。1945(昭和 20)年、37 歳の竹之内は陸軍の兵士として朝鮮半島へ従軍しましたが、行方不明のまま帰らぬ人となりました。



竹之内喜八郎と和歌山高等女学校生
『和歌山高等女学校教諭竹之内喜八郎関係資料』

資料 1 は、竹之内が記した遺言状です。自らの死後の遺骨や財産の扱いについて記されています。

資料 2 は、1949(昭和 24)年に和歌山県教育委員会が発行した竹之内の高校音楽の教員免許状です。竹之内が生きていることを信じて、家族が教員免許状の発行の手続きをしたものと考えられます。

資料 3 は、終戦から 13 年後の 1958(昭和 33)年に和歌山県が発行した竹之内の死亡を認定したことを妻に知らせる告知書です。資料には、1945(昭和 20)年 8 月 15 日に朝鮮半島東北部で戦死(認定)と記されています。

資料 4 は、1959(昭和 34)年、靖国神社^{やすくに}に竹之内が合祀^{ごうし}されたことを遺族に事後通知した書類です。靖国神社は、幕末以降の戦死者などをまつる神社として、戦前は国家が管理、戦後は連合国の占領政策によって国家から分離され、宗教法人になりました。

¹ 和歌山県立桐蔭高等学校は、1947(昭和 22)年の学校教育法制定により、翌年、旧制の県立和歌山中学校(男子校)・県立和歌山高等女学校(女子校)・和歌山市立和歌山高等女学校(女子校)が廃止されて、新設された男女共学の学校。

3 活用のポイント

● 中学校社会〔歴史的分野〕の場合…C 近現代の日本と世界

第二次世界大戦を学習する際に、身近な和歌山県にゆかりのある兵士として竹之内喜八郎を取り上げ、自らの死後を想定した遺言状を残していたこと、家族は生きていることを信じて教員免許状の発行手続きをしていたこと、家族への死亡の告知が終戦から13年経過して送られたこと、靖国神社に合祀されたことが家族に事後通知されたことを知り、従軍し戦死することについて一人の人物から学ぶことができます。

● 歴史総合の場合…C 国際秩序の変化や大衆化と私たち

第二次世界大戦を学習する際に、この解説シートのほか、解説シート「戦後日本とフィリピン―戦闘を続けた日本兵の捜索―」、「沖縄戦―生還した者の慰霊と語り―」を合わせて、太平洋戦争に従軍した人に関する授業を構成することができます。この解説シートからは、「戦争で亡くなった竹之内は、戦後、人々からどのように扱われたのでしょうか。」と問いかけることで、家族は生存を信じていたことや、和歌山県は終戦から13年後に死亡認定の通知を家族に送ったこと、靖国神社は英霊として祀^{まつ}ったことがわかり、他の生還した者と戦闘を続けた者の解説シートと合わせて、戦争が人々に与えた影響を考えることができます。

● 日本史探究の場合…D 近現代の地域・日本と世界

戦時下の人々の生活を学習する際に、本資料や解説シートから作曲家で音楽教師であった竹之内喜八郎の生涯を調べる活動を通じて、戦死した兵士ひとりひとりに、それまでの歩みがあり、一人の人間であったことを実感させることができます。また、竹之内が作曲した童謡の変遷から、大正時代に大衆文化とともに童謡が流行していたことや次第に戦争と関係が深い作品となったことを学び、音楽が社会の影響を受けて変化していることに気付くことができます。さらに、竹之内が音楽教師として勤務した和歌山高等女学校について解説シートから、戦争の進展とともに生徒たちの学校生活が変化するようすを読み取ることができます。

4 出典

- ・当館所蔵 和歌山高等女学校教諭竹之内喜八郎資料

5 関連資料・ウェブサイト等

- ・戦時音楽学生 Web アーカイブ「声聴館」(東京藝術大学)…竹之内喜八郎の母校である東京藝術大学が調査・研究してきた戦時下の音楽学生の記録資料を公開するデジタルアーカイブ。
- ・ジャンル「唱歌、童謡」(国立国会歴史的音源 れきおん)…大正・昭和期の童謡の音源を検索可能。
- ・砂川佳子「海老茶式部が闊歩する一近代和歌山の女子教育」(『和歌山県立文書館だより第48号』2017年)
- ・「和歌山高等女学校の歴史について」(和歌山県立桐蔭高等学校)
- ・「和歌山県 県立和歌山高等女学校」(国立公文書館デジタルアーカイブ)…文部省作成の学校台帳。
- ・「死亡告知書(公報)」(みたかデジタル平和資料館)

6 参考文献

- ・和歌山県教育史編纂委員会編『和歌山県教育史 第1巻』和歌山県教育委員会、2007年
- ・藤隆宏「童謡作曲家 竹之内喜八郎―『和歌山高等女学校教諭竹之内喜八郎資料』より―」(『和歌山県立文書館だより第64号』2023年)